

# 地域巡検プログラムによる 大学生のソーシャル・キャピタル向上

谷木龍男（清和大学法学部）

キーワード：ソーシャル・キャピタル，地域愛着，地域巡検，大学生

## 目的

ソーシャル・キャピタルとは、「人々の協調行動を活発にすることによって、社会の効率性を高めることのできる、『信頼』『規範』『ネットワーク』といった社会組織の特徴」と定義される (Putnam, 1992)。学生のソーシャル・キャピタルは、学校改革、教育効果、抑うつや主観的 well-being に影響を与えることが報告されている (Bryk & Schneider, 2002; 志水, 2003; 芳賀ら, 2015 など)。

本研究では、大学の正課・集中授業として実施した、大学が所在する地域の巡検を中心として地域巡検プログラムが、大学生のソーシャル・キャピタル（信頼感，互酬性，地域愛着）に及ぼす効果を検討することを目的とした。

## 方法

対象：

○地域巡検群：教養演習【野外実習】（以下、野外実習）を受講した A 大学の大学生 15 名（男性 14 名，女性 1 名，平均年齢 20.8±1.2 歳）であった。

○対照群：野外実習を受講しなかった清和大学学生 15 名（男性 13 名，女性 2 名，平均年齢 20.8±1.2 歳）であった。

地域巡検プログラム：

3 泊 4 日の合宿形式であった。1 日目と 2 日目は地域巡検として、地域の史跡，工場，博物館の見学を実施した。3 日目と 4 日目は地域自然活動体験として、溪谷の 10km のハイキングと定置網漁見学を実施した。1 日目と 2 日目の夕食は、参加者全員で野外炊さんを実施した。スタッフは教職員 4 名であった。

期間：2017 年 8 月 X 日から X+3 日

測度：

- ① 地域と大学に対する愛着，信頼感，互酬性：地域と大学への愛着（～が好きだ），の人々への信頼感（「～の人々は信頼できる」），互酬性（「～の人々はお互いに助け合っている」）をそれぞれ 1 項目 5 件法によって尋ねた。
- ② 地域愛着尺度：萩原・藤井（2005）が開発した地域愛着尺度によって地域愛着を測定した。この尺度は，地域愛着を「選好」，「感情」，「持続願望」の観点から測定するものである。

手続き：

地域巡検群に対して、野外実習の開始時と終了時に、Survey

Monkey 社の Web アンケートに回答を求めた。対照群は、地域巡検群と同時期に 2 度、同じ Web アンケートに回答した。野外実習期間は夏季休業中であり、対照群には特別な介入は行わなかった。参加者は全員、自己所有の携帯電話を通じて回答した。統計ソフトは SPSS 24.0 を用いた。

倫理的配慮：事前講習において本研究を説明し、参加者全員から研究参加の同意が得られた。説明には、調査への参加は自由意志で決められること、参加しない場合でも一切不利益を被ることはないことなどが含まれていた。

## 結果

2 要因混合計画分散分析によって、野外実習の効果を検討した。その結果、地域への愛着 ( $F(1, 28) = 5.56, p = .03$ )，地域の人々への信頼感 ( $F(1, 28) = 7.9, p = .01$ )，地域の人々の互酬性 ( $F(1, 28) = 4.55, p = .04$ )，地域の持続願望の交互作用 ( $F(1, 28) = 4.94, p = .04$ ) が有意であった。

そこで単純主効果の分析を行った結果、野外実習群のみ、野外実習の前後で、地域への愛着，地域の人々への信頼感と互酬性の変数の得点が有意に増加していた（全て  $p < .05$ ）。

## 考察

大学の正課・集中授業として実施した野外実習，地域巡検プログラムによって、地域への愛着，信頼感，互酬性が増加したことは、地域巡検プログラムの大学生のソーシャル・キャピタル向上効果を示している。地域巡検プログラムを通じて、地域社会の歴史を知り、地域の人々と交流したことが、地域愛着形成につながったものと考えられる。

一方、大学への愛着，大学の人々への信頼感，互酬性に有意な変化はなかった。今後、対象者を増やすことで検出力を高めると共に、野外炊さんのような共同作業を増やし、アイスブレイクなどのエンカウンターエクササイズをプログラムに組み込むことによって、地域巡検プログラムの教育効果を高めていくことが有効であると考えられる。

## 利益相反開示

発表に関連し、開示すべき利益相反関係にある企業などはありません。

(Yagi Tatsuo)